

① 御手洗瑞子 著

『ブータン、これでいいのだ』

(新潮社)

本書は、先日ワンチュク国王夫妻が来日されて、GNH（国民総幸福量）という言葉が話題になったブータンの人々の日常生活の様子を、多数のカラー写真とともに紹介している本です。

本当の《しあわせ》とは何なのか、しあわせゾーンの広大なブータンの人々が教えてくれます。

とてもユニークな現地インタビューも盛り込まれています。その内容は今はお知らせできません。《しあわせ》の国の秘密を知りたい人は、是非読んでみてください。

302.258 ||Mit (N. K.)

③ 岡田圭子・野村隆宏 著

『アスリートたちの英語トレーニング術』

(岩波書店)

オリンピックや国際大会で活躍するアスリート達は、どうやって英語を身に付けたのでしょうか？

本書では、鈴木大地、増田明美、箕内拓郎、瀬古利彦、太田章など5人のトップアスリートが世界の舞台で栄光を掴むまでの道のりと、ユニークな英語学習法、引退後の国際的な活躍について語っています。人によって英語の学習方法も様々あります。一流と言われる人は、皆何事にも日々努力を積み重ねています。英語の効果的な学び方のみならず、これからの人生の生き方についてもきっとみなさんの参考になることが沢山あります。

837.8 ||Oka (S.S.)



② 池上彰 監修

『政治と経済のしくみがわかるおとな事典』

(講談社)

政治や経済について、テレビや新聞で見たり読んだりして知っているつもりなのに、いざそれを説明するとなると困ってしまう事はありませんか？ 例えばリーマンショックを簡潔に述べる事は出来るでしょうか？

本書は政治や経済の仕組みの基礎を、イラストを多用して分かりやすく解説しています。巻末には索引があるので、調べたい項目を探すのに便利でしょう。卒業までに一度目を通してみてはいかがでしょうか。

310 ||Ike (T.F.)

④ ロジャー・パルパース 著、坂野由紀子 訳

『もし、日本という国がなかったら』

(集英社)

宮沢賢治が大好きだというアメリカ生まれの著者は、日本の様々な文化を積極的に評価し、「日本という国は世界にとって、なくてはならない必要な存在だ」と主張しています。ロシア語を学んでソ連を旅行し、ポーランドの大学に留学した著者が、ある日突然スパイ容疑を受けて帰国せざるを得なくなり、ベトナム戦争に徴兵されるのを避けて、日本について殆ど何も知らずに日本に来て京都に住み始めるという経歴からして、興味をそそるものがあります。日本で希望を見出した著者が、未曾有の大災害に遭った私達に贈る激励の言葉には勇気づけられます。

289.3 ||Pul (F.O.)